

ご近所のお医者さん

□
732
□

ふなおペイン
クリニック院長

舟尾友晴さん

＝大阪市天王寺区



医者のパートナー

皆さまは、ペインクリニックという言葉を知っていますか？ どのような治療を思い浮かべますか？ やはり患部に針を刺し薬液を注入する、神経ブロック治療ではないでしょうか。当院でも毎日のように神経ブロック治療を行っています。

おり、疾患

や病態によっては非常に有効な治療法のひとつです。

そんな神経ブロック治療ですが、現在では超音波装置（いわゆるエコー）

医療機器さまさま

やX線装置（いわゆるレントゲン）を見ながら施行することが多いです。しかし、私がペインクリニックを研修し始めた二十数年前は、体表から触れる骨の突起などを目印に体内の構造を

化されています。神経ブロックの安全性と精度は格段に向上しているので。しかし、こんなに便利で有用な医療機器にも問題はあります。それは不具合です。丁寧に扱うのは言うまでもないですが、夏場は休診日でも室温を一定に保つためエアコンを作動させていても、たまに機嫌を損ねてしまい、

無視（画面に何も写らない）されない）しま

イメージして針を進める方法が圧倒的に多かったのです。その当時は「必殺仕事人」になった気分でしたが、今振り返るとよくやっていたなと思います。

す。再起動で機嫌を直してくれることがほとんどですが、その間ドキドキして待っています。その時に、自分は怖いもの知らずの「必殺仕事人」には戻れないなと感じるのです。

エコーやレントゲンで見える二次元の画像から、頭の中で体内の構造を立体的に把握する必要があるものの、特にエコーではターゲットまでの距離やそこまでの針の進入経路上に血管があるかないかなどが現在では可視

だから患者さんのため、私の精神的安寧のため、明日もきれいな画像を見せてくれますようにと心の中でお祈いしながら、温度管理やお手入れを欠かさずに「医療機器さま」のご機嫌をうかがう日々を過ごしています。